

## 医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会のIF記載要領2018（2019年更新版）に準拠して作成

経皮吸収型鎮痛消炎剤

日本薬局方 フェルビナクパップ

フェルビナクパップ 70mg「ラクール」

FELBINAC PAPS 70mg 「RAKOOL」

フェルビナクパップ 140mg「ラクール」

FELBINAC PAPS 140mg 「RAKOOL」

剤形	貼付剤（パップ剤）
製剤の規制区分	なし
規格・含量	フェルビナクパップ 70mg 「ラクール」： 1枚 10cm×14cm（膏体 14g）中フェルビナク 70mg 含有 フェルビナクパップ 140mg 「ラクール」： 1枚 14cm×20cm（膏体 28g）中フェルビナク 140mg 含有
一般名	和名：フェルビナク 洋名：Felbinac
製造販売承認年月日 薬価基準収載・ 販売開始年月日	製造販売承認年月日： フェルビナクパップ 70mg 「ラクール」：2013年2月15日 フェルビナクパップ 140mg 「ラクール」：2013年2月15日 薬価基準収載年月日： フェルビナクパップ 70mg 「ラクール」：2013年6月21日 フェルビナクパップ 140mg 「ラクール」：2013年6月21日 販売開始年月日： フェルビナクパップ 70mg 「ラクール」：1999年7月1日 フェルビナクパップ 140mg 「ラクール」：2010年5月1日
製造販売（輸入）・ 提携・販売会社名	製造販売元：三友薬品株式会社 発売元：ラクール薬品販売株式会社
医薬情報担当者の連絡先	
問い合わせ窓口	ラクール薬品販売株式会社 DI室 TEL：03-3899-8881 FAX：03-3853-9641 医療関係者向けホームページ： <a href="http://www.rakool.co.jp">http://www.rakool.co.jp</a>

本IFは2023年9月改訂の電子添文の記載に基づき改訂した。

最新の情報は、独立行政法人 医薬品医療機器総合機構の医薬品情報検索ページで確認してください。

## 1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として、医療用医薬品添付文書（以下、添付文書と略す）がある。医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合があり、製薬企業の医薬情報担当者（以下、MR と略す）等に情報の追加請求や質疑をして情報を補完して対処してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための情報リストとして医薬品インタビューフォーム（以下、IF と略す）が誕生した。

1988年に日本病院薬剤師会（以下、日病薬と略す）学術第2小委員会がIFの位置付け、IF記載様式、IF記載要領を策定し、その後1998年に日病薬学術第3小委員会が、2008年、2013年に日病薬医薬情報委員会がIF記載要領の改訂を行ってきた。

IF記載要領2008以降、IFは紙媒体の冊子としての提供方式からPDF等の電子的データとして提供することが原則となった。これにより、添付文書の主要な改訂があった場合に、改訂の根拠データを追加したIFが速やかに提供されることとなった。最新版のIFは、医薬品医療機器総合機構（以下、PMDA と略す）の医療用医薬品情報検索のページ（<http://www.pmda.go.jp/PmdaSearch/iyakuSearch/>）にて公開されて入手可能となっている。日病薬では、2008年より新医薬品のIFの情報を検討する組織として「インタビューフォーム検討会」を設置し、個々のIFが添付文書を補完する適正使用情報として適切か審査・検討している。

この度、2019年の添付文書記載要領の変更に合わせ、新たに日病薬医薬情報委員会が記載要領を改め、「IF記載要領2018」として公表された。

## 2. IFとは

IFは「添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

IFに記載する項目及び配列は日病薬が策定したIF記載要領に準拠する。ただし、医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（以下、薬機法と略す）に基づく承認事項を逸脱するもの、製薬企業の機密等に関わるもの及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等はIFの記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供されたIFは、薬剤師自らが評価・判断・臨床適応するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

IFの提供は、電子媒体を基本とし、必要に応じて薬剤師が印刷して使用する。製薬企業での製本は必須ではない。

## 3. IFの利用にあたって

電子媒体のIFは、PMDAの医療用医薬品情報検索ページに掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従ってIFを作成・提供するが、

IFの原点を踏まえ、医療現場に不足している情報やIF作成時に記載し難い情報等については製薬企業のMR等へのインタビューにより薬剤師等自らが内容を充実させ、IFの利用性を高める必要がある。また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、IFが改訂されるまでの間は、当該医薬品の製薬企業が提供する添付文書やお知らせ文書等、あるいは各種の医薬品情報提供サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに、IFの使用にあたっては、最新の添付文書をPMDAの医療用医薬品情報検索ページで確認する必要がある。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等は承認事項に関わることもあり、その取扱いには十分留意すべきである。

#### 4. 利用に際しての留意点

IFを薬剤師等の日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用していただきたい。しかし、薬機法の広告規制や医療用医薬品プロモーションコード等により、製薬企業が提供できる範囲には自ずと限界がある。IFは日病薬の記載要領を受けて、当該医薬品製薬企業が作成・提供するものであることから、記載・表現には制約を受けざるを得ないことを認識しておかなければならない。

(2018年10月改訂)

---

# 目 次

---

I. 概要に関する項目	
1. 開発の経緯	1
2. 製品の治療学的特性	1
3. 製品の製剤学的特性	1
4. 適正使用に関して周知すべき特性	1
5. 承認条件及び流通・使用上の制限事項	1
6. RMP の概要	1
II. 名称に関する項目	
1. 販売名	1
2. 一般名	2
3. 構造式又は示性式	2
4. 分子式及び分子量	2
5. 化学名（命名法）又は本質	2
6. 慣用名、別名、略号、記号番号	2
III. 有効成分に関する項目	
1. 物理化学的性質	2
2. 有効成分の各種条件下における安定性	2
3. 有効成分の確認試験法、定量法	2
IV. 製剤に関する項目	
1. 剤形	3
2. 製剤の組成	3
3. 添付溶解液の組成及び容量	3
4. 力価	3
5. 混入する可能性のある夾雑物	3
6. 製剤の各種条件下における安定性	4
7. 調製法及び溶解後の安定性	4
8. 他剤との配合変化（物理化学的変化）	4
9. 溶出性	4
10. 容器・包装	4
11. 別途提供される資材類	4
12. その他	4
V. 治療に関する項目	
1. 効能又は効果	4
2. 効能又は効果に関連する注意	4

3. 用法及び用量	4
4. 用法及び用量に関連する注意	4
5. 臨床成績	5
VI. 薬効薬理に関する項目	
1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群	5
2. 薬理作用	5
VII. 薬物動態に関する項目	
1. 血中濃度の推移	6
2. 薬物速度論的パラメータ	6
3. 母集団（ポピュレーション）解析	7
4. 吸収	7
5. 分布	7
6. 代謝	7
7. 排泄	7
8. トランスポーターに関する情報	8
9. 透析等による除去率	8
10. 特定の背景を有する患者	8
11. その他	8
VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目	
1. 警告内容とその理由	8
2. 禁忌内容とその理由	8
3. 効能又は効果に関連する注意とその理由	8
4. 用法及び用量に関連する注意とその理由	8
5. 重要な基本的注意とその理由	8
6. 特定の背景を有する患者に関する注意	9
7. 相互作用	10
8. 副作用	10
9. 臨床検査結果に及ぼす影響	10
10. 過量投与	10
11. 適用上の注意	10
12. その他の注意	11
IX. 非臨床試験に関する項目	
1. 薬理試験	11
2. 毒性試験	11
X. 管理的事項に関する項目	
1. 規制区分	11
2. 有効期間	11
3. 包装状態での貯法	11
4. 取扱い上の注意点	11

5. 患者向け資材	1 1
6. 同一成分・同効薬	1 1
7. 国際誕生年月日	1 2
8. 製造販売承認年月日及び承認番号、薬価基準収載年月日、 販売開始年月日	1 2
9. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容	1 2
10. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容	1 2
11. 再審査期間	1 2
12. 投薬期間制限に関する情報	1 2
13. 各種コード	1 2
14. 保険給付上の注意	1 2
X I. 文献	
1. 引用文献	1 2
2. その他の参考文献	1 3
X II. 参考資料	
1. 主な外国での発売状況	1 3
2. 海外における臨床支援情報	1 3
X III. 備考	
1. 調剤・服薬支援に際して臨床判断を行うにあたっての参考情報	1 3
2. その他の関連資料	1 3

**略語表**

略語	略語内容
JAN	Japanese Accepted Names for Pharmaceuticals 日本医薬品一般の名称
INN	International Nonproprietary Name 医薬品国際一般名称

## I. 概要に関する項目

### 1. 開発の経緯

フェルビナクパップ 70mg「ラクール」及びフェルビナクパップ 140mg「ラクール」は、経皮吸収型鎮痛消炎剤であるフェルビナク含有パップ剤の後発医薬品として開発され、1999年3月に「アスゼスパップ」の承認を得て発売。その後医療事故防止のための販売名変更（薬食審査発第0922001号（平成17年9月22日）に基づく）により「アスゼスパップ 70mg」への名称変更を行った。また、面積がその2倍の大判サイズ「アスゼスパップ 140mg」を2010年1月に承認を取得、同年5月に上市した。さらに、一般名の名称変更を行い、『フェルビナクパップ 70mg「ラクール」』及び『フェルビナクパップ 140mg「ラクール」』として2013年2月に承認を取得。同年6月に上市を経て現在に至っている。

### 2. 製品の治療学的特性

フェルビナクの強力な抗炎症作用、鎮痛作用が期待される。

### 3. 製品の製剤学的特性

優れた基剤の粘着性。  
伸縮自在性の不織布の採用により、部位を選ばず患部にフィットする。

### 4. 適正使用に関して周知すべき特性

適正使用に関する資材、最適使用推進ガイドライン等	有・無
RMP	無
追加のリスク最小化活動として作成されている資材	無
最適使用推進ガイドライン	無
保険適用上の留意事項通知	無

### 5. 承認条件及び流通・使用上の制限事項

該当しない

#### (1) 承認条件

#### (2) 流通・使用上の制限事項

### 6. RMPの概要

該当しない

## II. 名称に関する項目

### 1. 販売名

#### (1) 和名

フェルビナクパップ 70mg「ラクール」  
フェルビナクパップ 140mg「ラクール」

#### (2) 洋名

FELBINAC PAPS 70mg「RAKOOL」  
FELBINAC PAPS 140mg「RAKOOL」

#### (3) 名称の由来

一般名称を基本とした販売名

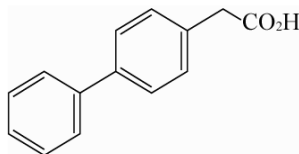


## 2. 一般名

- (1) 和名 (命名法)
- (2) 洋名 (命名法)
- (3) ステム

フェルビナク (JAN)  
Felbinac (JAN,INN)  
イブフェナク系抗炎症薬：-ac

## 3. 構造式又は示性式



## 4. 分子式及び分子量

分子式：C<sub>14</sub>H<sub>12</sub>O<sub>2</sub>      分子量：212.24

## 5. 化学名 (命名法) 又は本質

Biphenyl-4-ylacetic acid (JAN)

## 6. 慣用名、別名、略号、記号 番号

治験番号：TC11-8001

## Ⅲ. 有効成分に関する項目

### 1. 物理化学的性質

- (1) 外観・性状
- (2) 溶解性

白色～微黄白色の結晶又は結晶性の粉末である。  
メタノール又はアセトンにやや溶けやすく、エタノール(95)  
にやや溶けにくく、水にほとんど溶けない。

溶 媒	本品 1g を溶かすのに必要な溶媒量
メタノール	10mL 以上 30mL 未満
アセトン	10mL 以上 30mL 未満
エタノール (95)	30mL 以上 100mL 未満
水	10000mL 以上

- (3) 吸湿性
- (4) 融点 (分解点)、沸点、  
凝固点
- (5) 酸塩基解離定数
- (6) 分配係数
- (7) その他の主な示性値

該当資料なし

融点：163～166℃

pka≒3.9

1-オクタノール/水：21.4

該当資料なし

### 2. 有効成分の各種条件下に おける安定性

該当資料なし

### 3. 有効成分の確認試験法、 定量法

確認試験法：

日局「フェルビナク」の確認試験による。

1) 紫外吸収スペクトル

スペクトルを参照スペクトルと比較する時、同一波長の

#### IV. 製剤に関する項目

##### 1. 剤形

###### (1) 剤形の区別

###### (2) 製剤の外観及び性状

###### (3) 識別コード

###### (4) 製剤の物性

###### (5) その他

##### 2. 製剤の組成

###### (1) 有効成分（活性成分）の 含量及び添加剤

###### (2) 電解質等の濃度

###### (3) 熱量

##### 3. 添付溶解液の組成及び容量

##### 4. 力価

##### 5. 混入する可能性のある 夾雑物

ところに同様の強度の吸収を認める。

###### 2) 赤外吸収スペクトル 臭化カリウム錠剤法

スペクトルを参照スペクトルと比較する時、同一波数のところに同様の強度の吸収を認める。


定量法：


0.1mol/L 水酸化ナトリウム液による中和滴定法

0.1mol/L 水酸化ナトリウム液 1mL=21.22mg  $C_{14}H_{12}O_2$

貼付剤（パップ剤）

白色～淡黄色の膏体を不織布に展延し、膏体表面をプラスチックフィルムで被覆した貼付剤であり、わずかに特異なおいを有する。

フェルビナクパップ 70mg : 02

フェルビナクパップ 140mg : 10

粘着力試験（ボールタック法）：

清浄なスチールボール（No.4 以上）をころがすとき、スチールボールは粘着面で停止する。

該当資料なし

フェルビナクパップ 70mg : 1 枚（10×14cm、膏体 14g）中にフェルビナク 70mg を含有する。

フェルビナクパップ 140mg : 1 枚（14×20cm、膏体 28g）中にフェルビナク 140mg を含有する。

ポリソルベート 80、D-ソルビトール、グリセリン、ポリビニルアルコール（部分けん化物）、カルボキシビニルポリマー、ポリアクリル酸部分中和物、N-メチル-2-ピロリドン、ケイ酸アルミン酸 Mg、カオリン、酸化チタン

該当しない

該当しない

該当しない

該当しない

該当資料なし

**6. 製剤の各種条件下における安定性**

各種条件下における安定性<sup>1), 2)</sup>

保存条件	保存期間	保存形態	結果
40℃、75%RH	6 箇月	最終包装	変化なし

**7. 調製法及び溶解後の安定性**

該当資料なし

**8. 他剤との配合変化  
(物理化学的变化)**

該当資料なし

**9. 溶出性**

該当資料なし

**10. 容器・包装**

**(1) 注意が必要な容器・包装、  
外観が特殊な容器・包装  
に関する情報**

該当資料なし

**(2) 包装**

フェルビナクパップ 70mg : 300 枚 (6 枚×50)、350 枚 (7 枚×50)

フェルビナクパップ 140mg : 280 枚 (7 枚×40)

**(3) 予備容量**

該当しない

**(4) 容器の材質**

紙を主成分とするアルミラミネート

**11. 別途提供される資材類**

該当資料なし

**12. その他**

該当資料なし

**V. 治療に関する項目**

**1. 効能又は効果**

下記疾患並びに症状の鎮痛・消炎

変形性関節症、肩関節周囲炎、腱・腱鞘炎、腱周囲炎、上腕骨上顆炎（テニス肘等）、筋肉痛、外傷後の腫脹・疼痛

**2. 効能又は効果に関連する  
注意**

設定されていない

**3. 用法及び用量**

**(1) 用法及び用量の解説**

1 日 2 回患部に貼付する。

**(2) 用法及び用量の設定経緯  
・根拠**

該当資料なし

**4. 用法及び用量に関連する  
注意**

設定されていない

## 5. 臨床成績

### (1) 臨床データパッケージ

該当資料なし

### (2) 臨床薬理試験

該当資料なし

### (3) 用量反応探索試験

該当資料なし

### (4) 検証的試験

1)有効性検証試験

国内で総計40例について実施された一般臨床試験の概要は次の通りである<sup>3)</sup>。

疾患名	改善率	
	中等度改善以上	軽度改善以上
変形性膝関節症	55.0% (11/20)	90.0% (18/20)
肩関節周囲炎	66.7% (4/6)	83.3% (5/6)
筋肉痛	71.4% (5/7)	100% (7/7)
外傷後の腫脹・疼痛	100% (5/5)	100% (5/5)
その他	100% (2/2)	100% (2/2)

副作用：40例中1例(2.5%)に軽度な接触性皮膚炎が認められたが、治験は継続し、発現後3日で症状は全て回復した。

2)安全性試験：該当資料なし

### (5) 患者・病態別試験

該当資料なし

### (6) 治療的使用

該当資料なし

### (7) その他

該当資料なし

## VI. 薬効薬理に関する項目

### 1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群

フェンブフェン：

フェルビナクを親化合物とするプロドラッグ

4-OH-フェルビナク：

フェルビナクの動物及びヒトにおける代謝物

### 2. 薬理作用

#### (1) 作用部位・作用機序

作用部位：貼付部位で局所的に作用を発揮する。

作用機序：疼痛、急性炎症・慢性炎症に対し、鎮痛・抗炎症作用を示す。

1)プロスタグランジン生合成抑制作用

フェルビナクは、モルモット肺より抽出したプロスタグランジン合成酵素のシクロオキシゲナーゼに対し、インドメタシンの1/2、アスピリンの10倍の阻害作用が認められた(IC<sub>50</sub>=0.61pg/mL)<sup>4)</sup>。

2)抗プロスタグランジン作用

フェルビナクは、プロスタグランジンE<sub>1</sub>によるスナネズミ結腸の収縮に対し、抑制作用を示した<sup>4)</sup>。

#### (2) 薬効を裏付ける試験成績

カラゲニン足蹠浮腫(ラット)、紫外線紅斑(モルモット)、

酵母による炎症性疼痛（ラット）、血管透過性亢進（ラット）に対する各種抑制試験において、本剤は無処置対照群及び基剤群に対し、統計学的な有意差をもって効果が認められた<sup>5)</sup>。該当資料なし

(3) 作用発現時間・持続時間

Ⅶ. 薬物動態に関する項目

1. 血中濃度の推移

(1) 治療上有効な血中濃度

該当資料なし

(2) 臨床試験で確認された血中濃度

フェルビナクパップ 70mg 4枚（1枚中にフェルビナク 70mg を含有）を健康成人男子 5 例の背部に 12 時間単回貼付したときのフェルビナクの平均血清中濃度及び薬物動態パラメータは、下図のような推移を示した<sup>6)</sup>。

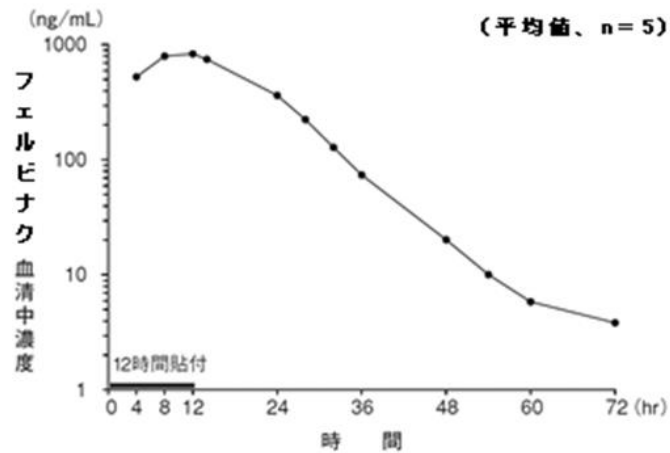


図 フェルビナクパップ 70mg 4枚（1g 中にフェルビナク 70mg を含有）単回貼付後の血清中フェルビナク濃度推移

T <sub>max</sub> (hr)	C <sub>max</sub> (ng/mL)	AUC(μg·hr/mL)	T <sub>1/2</sub> (hr)
11.2±0.8	835±127	17.0±2.6	6.82±0.33

(平均値±S.E., n=5)

(3) 中毒域

該当資料なし

(4) 食事・併用薬の影響

該当資料なし

2. 薬物速度論的パラメータ

該当資料なし

(1) 解析方法

(2) 吸収速度定数

(3) 消失速度定数

(4) クリアランス

(5) 分布容積

(6) その他

3. 母集団（ポピュレーション） 解析	該当資料なし
(1) 解析方法	
(2) パラメータ変動要因	
4. 吸収	該当資料なし
5. 分布	
(1) 血液－脳関門通過性	該当資料なし
(2) 血液－胎盤関門通過性	該当資料なし
(3) 乳汁への移行性	該当資料なし
(4) 髄液への移行性	該当資料なし
(5) その他の組織への移行性	<p>0.5%<sup>14</sup>C-フェルビナク貼付剤（パップ剤）3cm×4cm を雄性ラットの剃毛した正常背部皮膚に 24 時間貼付したとき、ほとんどの組織において放射能濃度は 8 時間後に最高値を示した。特に貼付部位皮膚で高濃度（219 μg/g）が認められ、次いで血液、血漿、肝臓、腎臓及び貼付部位筋肉等に高濃度の放射能が認められた</p> <p>また、同様の実験をカラゲニン足浮腫ラットを用いて行ったとき、1、3 及び 6 時間後の炎症部位の滲出液中放射能濃度は非貼付部位の約 90～130 倍の値を示した<sup>7)</sup>。</p>
(6) 血漿蛋白結合率	該当資料なし
6. 代謝	該当資料なし
(1) 代謝部位及び代謝経路	
(2) 代謝に関与する酵素 （CYP 等）の分子種、寄与率	
(3) 初回通過効果の有無及びその割合	
(4) 代謝物の活性の有無及び活性比、存在比率	
7. 排泄	<p>血清中濃度測定と同時に測定した尿中排泄では、代謝物として主にフェルビナク抱合体並びに 4'-OH-フェルビナク及びその抱合体が尿中に認められた。投与 72 時間後までのこれらの累積排泄量は、18.4mg（フェルビナク換算値、貼付量の 6.6%）であり、そのうち未変化体フェルビナクの排泄量は約 0.3mg であった<sup>6)</sup>。</p>

8. トランスポーターに関する情報	該当資料なし
9. 透析等による除去率	該当資料なし
10. 特定の背景を有する患者	該当資料なし
11. その他	該当資料なし
Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）に関する項目	
1. 警告内容とその理由	設定されていない
2. 禁忌内容とその理由	<p><b>2. 禁忌（次の患者には投与しないこと）</b></p> <p>2.1 本剤又は他のフェルビナク製剤に対して過敏症の既往歴のある患者</p>
	<p>2.2 アスピリン喘息（非ステロイド性消炎鎮痛剤等による喘息発作の誘発）又はその既往歴のある患者〔喘息発作を誘発するおそれがある〕〔9.1.1 参照〕</p> <p>（解説）</p> <p>非ステロイド性消炎鎮痛剤に共通する喘息誘発作用により、アスピリン喘息患者又はその既往歴のある患者が本剤を使用することで、重症喘息発作が誘発される危険性がある。</p>
3. 効能又は効果に関連する注意とその理由	設定されていない
4. 用法及び用量に関連する注意とその理由	設定されていない
5. 重要な基本的注意とその理由	<p><b>8. 重要な基本的注意</b></p> <p>8.1 消炎鎮痛剤による治療は原因療法ではなく対症療法であることに留意すること。</p> <p>（解説）</p> <p>消炎鎮痛剤による治療は、炎症の原因になっている疾病を治療するものではなく、炎症の症状のみを治療するものである。</p> <p>8.2 慢性疾患（変形性関節症等）に対し本剤を用いる場合には薬物療法以外の療法も考慮すること。</p>

**6. 特定の背景を有する患者に関する注意**

**(1) 合併症・既往歴等のある患者**

(解説)

慢性疾患では非ステロイド性消炎鎮痛剤などによる薬物療法だけでなく物理療法なども考慮する必要がある。

**9.1.1 気管支喘息の患者**(アスピリン喘息又はその既往歴のある患者を除く)  
重症喘息発作を誘発するおそれがある。[2.2 参照]

(解説)

非ステロイド性消炎鎮痛剤に共通する喘息誘発作用により、気管支喘息のある患者が本剤を使用することで、重症喘息発作が誘発される危険性がある。

**9.1.2 皮膚感染症のある患者**

感染を伴う炎症に対して用いる場合には適切な抗菌剤又は抗真菌剤を併用し、観察を十分行い慎重に使用すること。皮膚の感染症を不顕性化するおそれがある。

(解説)

感染症による発熱、疼痛、炎症等の臨床症状を不顕性化するが、感染は持続するため、原因療法として適切な抗菌剤又は抗真菌剤を併用し、慎重に使用する必要がある。経皮吸収型製剤では特に皮膚感染症に注意すること。

**(2) 腎機能障害患者**

設定されていない

**(3) 肝機能障害患者**

設定されていない

**(4) 生殖能を有する者**

設定されていない

**(5) 妊婦**

**9.5 妊婦**

妊婦又は妊娠している可能性のある女性に対しては治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ使用すること。シクロオキシゲナーゼ阻害剤(経口剤、坐剤)を妊婦に使用し、胎児の腎機能障害及び尿量減少、それに伴う羊水過少症が起きたとの報告がある。

(解説)

経皮吸収型製剤では血中への移行は極めて少なく、全身性の副作用を起こす可能性は低いと考えられるが、シクロオキシゲナーゼ阻害剤の経口剤及び坐剤を妊婦に使用し、胎児の腎機能障害及び尿量減少、それに伴う羊水過少症が起きたとの報告があるため、慎重に使用する必要がある。

**(6) 授乳婦**

設定されていない



(7) 小児等

9.7 小児

小児等を対象とした臨床試験は実施していない。

(8) 高齢者

設定されていない

7. 相互作用

設定されていない

(1) 併用禁忌とその理由

(2) 併用注意とその理由

8. 副作用

11. 副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には使用を中止するなど適切な処置を行なうこと。

(1) 重大な副作用と初期症状

11.1 重大な副作用

11.1.1 ショック、アナフィラキシー（いずれも頻度不明）

ショック、アナフィラキシー（蕁麻疹、血管浮腫、呼吸困難等）があらわれることがある。

(2) その他の副作用

	副作用の頻度		
	0.1～1%未満	0.1%未満	頻度不明
皮膚	皮膚炎（発疹、湿疹を含む）、そう痒、発赤、接触皮膚炎	刺激感	水疱

9. 臨床検査結果に及ぼす影響

該当資料なし

10. 過量投与

該当資料なし

11. 適用上の注意

14. 適用上の注意

14.1 薬剤使用時の注意

14.1.1 損傷皮膚及び粘膜に使用しないこと。

(解説)

損傷皮膚及び粘膜は皮膚刺激を生じやすく、また、本剤の経皮吸収が増大し、安全性に影響を与える可能性がある。

14.1.2 湿疹又は発疹の部位に使用しないこと。

(解説)

湿疹又は発疹のある部位に使用すると症状が悪化する可能性

	がある。
<b>12. その他の注意</b>	該当資料なし
(1) 臨床使用に基づく情報	
(2) 非臨床試験に基づく情報	
<b>IX. 非臨床試験に関する項目</b>	
<b>1. 薬理試験</b>	
(1) 薬効薬理試験	「VI. 薬効薬理に関する項目」参照
(2) 安全性薬理試験	該当資料なし
(3) その他の薬理試験	該当資料なし
<b>2. 毒性試験</b>	該当資料なし
(1) 単回投与毒性試験	
(2) 反復投与毒性試験	
(3) 遺伝毒性試験	
(4) がん原性試験	
(5) 生殖発生毒性試験	
(6) 局所刺激性試験	
(7) その他の特殊毒性	
<b>X. 管理的事項に関する項目</b>	
<b>1. 規制区分</b>	製剤：なし 有効成分：劇薬
<b>2. 有効期間</b>	3年
<b>3. 包装状態での貯法</b>	室温保存
<b>4. 取扱い上の注意</b>	・直射日光や高温を避けて保存すること。 ・開封後は、開封口のチャックを合わせて袋を密閉すること。
<b>5. 患者向け資材</b>	くすりのしおり
<b>6. 同一成分・同効薬</b>	同一成分薬： セルタッチパップ 70 (帝國製薬)、ナパゲルン軟膏 3% (ワイス) 同効薬： インドメタシン、ケトプロフェン、フルルビプロフェン、ジクロフェナクナトリウム、ロキソプロフェンナトリウム水和物

7. 国際誕生年月日	不明
8. 製造販売承認年月日及び承認番号、薬価基準収載年月日、販売開始年月日	<p>フェルビナクパップ 70mg 「ラクール」  製造販売承認年月日：2013年2月15日  承認番号：22500AMX00596000  薬価基準収載年月日：2013年6月21日  販売開始年月日：1999年7月1日</p> <p>フェルビナクパップ 140mg 「ラクール」  製造販売承認年月日：2013年2月15日  承認番号：22500AMX00597000  薬価基準収載年月日：2013年6月21日  販売開始年月日：2010年5月1日</p>
9. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容	該当しない
10. 再審査結果・再評価結果公表年月日及びその内容	該当しない
11. 再審査期間	該当しない
12. 投薬期間制限に関する情報	本剤は、投与期間に関する制限は定められていない。
13. 各種コード	<p>フェルビナクパップ 70mg 「ラクール」：  厚生労働省薬価基準収載医薬品コード：2649731S1267  個別医薬品コード（YJコード）：2649731S1267  HOT（9桁）番号：106460504  レセプト電算コード：620646004</p> <p>フェルビナクパップ 140mg 「ラクール」：  厚生労働省薬価基準収載医薬品コード：2649731S3014  個別医薬品コード（YJコード）：2649731S3057  HOT（9桁）番号：119751801  レセプト電算コード：621975102</p>
14. 保険給付上の注意	該当しない
<b>XI. 文献</b>	
1. 引用文献	1) 社内資料：フェルビナクパップ 70mg 「ラクール」の安定性試験（1999年3月承認、申請資料）

- 2) 社内資料：フェルビナクパップ 140mg 「ラクール」の安定性試験（2010年1月承認、申請資料）
- 3) 社内資料：フェルビナクパップ 70mg 「ラクール」の臨床試験成績（1999年3月承認、申請資料）
- 4) Tolman E.L., et al. : Prostaglandins. 1975 ; 9 (3) : 349-359
- 5) 社内資料：フェルビナクパップ 70mg 「ラクール」の同等性試験（1999年3月承認、申請資料）
- 6) 大西明弘ほか：薬理と治療. 1992 ; 20 (1) : 115-138
- 7) 山下憲昭ほか：薬理と治療. 1992 ; 20 (10) : 3957-3971

## 2. その他の参考文献

該当資料なし

## XII. 参考資料

### 1. 主な外国での発売状況

該当しない

### 2. 海外における臨床支援情報

該当資料なし

## XIII. 備考

### 1. 調剤・服薬支援に際して 臨床判断を行うにあつ ての参考情報

該当資料なし

### 2. その他の関連資料

該当資料なし



発売元

**ラクール薬品販売株式会社**  
東京都足立区鹿浜1丁目9番14号



製造販売元

**三友薬品株式会社**  
東京都足立区鹿浜1丁目9番14号